

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月7日
【四半期会計期間】	第83期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	株式会社スクロール
【英訳名】	Scroll Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鶴見 知久
【本店の所在の場所】	静岡県浜松市中央区佐藤二丁目24番1号
【電話番号】	053（464）1114（直通）
【事務連絡者氏名】	取締役経営統括部長 杉本 泰宣
【最寄りの連絡場所】	静岡県浜松市中央区佐藤二丁目24番1号
【電話番号】	053（464）1114（直通）
【事務連絡者氏名】	取締役経営統括部長 杉本 泰宣
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第82期 第3四半期 連結累計期間	第83期 第3四半期 連結累計期間	第82期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	61,786	60,800	81,018
経常利益 (百万円)	5,187	5,094	6,191
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	3,558	3,459	4,170
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,523	3,770	4,118
純資産額 (百万円)	31,401	33,320	31,997
総資産額 (百万円)	52,243	52,713	53,200
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	101.91	99.24	119.39
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.1	63.2	60.1

回次	第82期 第3四半期 連結会計期間	第83期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	35.03	32.09

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行され、行動制限や入国規制が解除されたことに伴い、人流が回復し、経済活動の正常化が進みました。一方、原材料や資源価格の高騰、為替相場の変動、不安定な国際情勢等の影響により、先行きは依然として不透明な状況となっております。小売業界におきましては、仕入価格や物流費をはじめとした各種コストの増加に加え、急激な物価上昇に伴う消費マインドの低下が懸念されており、厳しい経営環境となっております。通販業界におきましては、外出機会の増加に伴う実店舗への回帰が進んでいることに加えて、参入企業の増加に伴い業種・業態を越えた競争が激化しております。

このような環境のなか、当社グループは、「ダイレクトマーケティングソリューションカンパニー（DMSC）への転換」をテーマとする新たな中期経営計画「Direct Marketing Solution 2025」を策定いたしました。二大重点方針に「事業ポートフォリオの最適化による成長戦略の推進」「実効性のあるResponsibility経営の推進」を掲げ、ソリューション事業の成長加速に注力するとともに、環境・社会課題の解決に向けた取組みを推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高60,800百万円（前年同四半期比1.6%減）となりました。利益面におきましては、営業利益4,934百万円（同5.5%減）、経常利益5,094百万円（同1.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,459百万円（同2.8%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、各セグメントの売上高につきましては、セグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。

また、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの記載順序を変更しております。

#### ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、通販ソリューションメニューのワンストップ提供企業として、EC・通販事業者のサポートを行っております。物流代行においては、全国通販3PL戦略を掲げ、新規顧客の獲得に向けた営業活動や新サービスメニューの開発、物流センターの効率改善等に取り組んでまいりました。また、決済代行においては、新規クライアントの稼働に伴い取扱高が堅調に推移し、マーケティングサポートにおいては、アフィリエイトサービスの取扱ジャンルの拡充などにより好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は18,253百万円（前年同四半期比15.9%増）となり、セグメント利益は825百万円（同53.9%増）となりました。

#### 通販事業

通販事業におきましては、原材料や資源価格の高騰、円安が続く厳しいコスト環境のなか、販売価格のコントロールに取り組んだことに加え、商品供給率の改善により、受注が落ち込むなかでも前年同期を上回る売上総利益を確保いたしました。このほか、カタログ用紙使用量削減に向けた取組みによる販促費の上昇抑制や物流効率の改善など、事業効率の最大化に努めてまいりましたが、販売費及び一般管理費は前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、売上高は30,627百万円（同2.5%減）となり、セグメント利益は4,704百万円（同1.8%減）となりました。

#### eコマース事業

eコマース事業におきましては、外出機会の増加に伴う消費者の購買行動の変化により、非常に厳しい経営環境となっております。アウトドア・キャンプ用品におきましては、市場が縮小し需給バランスが悪化したことの影響により販売が不調となったほか、ブランド商材においても実店舗や公式店舗を含めた市場競争が激化したことにより受注数が落ち込むなど、厳しい結果となりました。

以上の結果、売上高は12,293百万円（同19.8%減）となり、セグメント損失は510百万円（前年同四半期はセグメント損失173百万円）となりました。

#### H B T事業

H B T事業におきましては、化粧品・健康食品ビジネスにおいて、新規商品の開発に努めてまいりました。また、旅行ビジネスにおいては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う旅行需要の高まりを受け、業績は回復傾向で推移いたしました。

なお、H B T事業におきましては、経営効率化を図ることを目的とした組織再編に着手しております。

以上の結果、売上高は1,071百万円（前年同四半期比1.6%減）となり、セグメント損失は25百万円（前年同四半期はセグメント損失125百万円）となりました。

#### グループ管轄事業

グループ管轄事業におきましては、自社保有物流施設等の不動産賃貸、当社グループの物流オペレーション及び海外子会社の管理を行っております。物流オペレーションにおいては、東海・関西・関東エリアにおけるセンター運営の強化を進め、安定的な運営体制の構築に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は2,506百万円（前年同四半期比2.9%減）となり、セグメント利益は100百万円（同12.0%減）となりました。

財政状態の分析は、次のとおりであります。

#### （資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は52,713百万円となり、前連結会計年度末に比べ486百万円減少いたしました。この主な要因は、現金及び預金の減少、売掛金の増加、未収入金の増加、棚卸資産の増加によるものであります。

#### （負債）

負債は19,393百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,810百万円減少いたしました。この主な要因は、長期借入金の減少によるものであります。

#### （純資産）

純資産は33,320百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,323百万円増加し、自己資本比率は63.2%となりました。

#### （2）会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

#### （3）優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

#### （4）研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月7日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	35,098,550	35,098,550	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	35,098,550	35,098,550	-	-

(注)発行済株式のうち225,500株は、譲渡制限付株式報酬として普通株式を発行した際の現物出資(金銭債権196百万円)によるものであります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日	-	35,098,550	-	6,116	-	7,332

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## ( 6 ) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 411,200	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 34,637,200	346,372	-
単元未満株式	普通株式 50,150	-	-
発行済株式総数	35,098,550	-	-
総株主の議決権	-	346,372	-

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社スクロール	静岡県浜松市中区 佐藤二丁目24番1号	411,200	-	411,200	1.17
計	-	411,200	-	411,200	1.17

（注）当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は、413,800株であります。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,267	4,204
売掛金	11,377	13,608
棚卸資産	8,754	10,597
未収入金	4,870	6,913
その他	1,367	1,184
貸倒引当金	487	562
流動資産合計	36,149	35,945
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,499	6,198
土地	5,489	5,489
その他(純額)	940	837
有形固定資産合計	12,928	12,525
無形固定資産		
のれん	42	10
その他	728	711
無形固定資産合計	770	722
投資その他の資産		
その他	3,733	4,017
貸倒引当金	381	496
投資その他の資産合計	3,352	3,520
固定資産合計	17,051	16,768
資産合計	53,200	52,713
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,707	2,965
短期借入金	3,000	3,000
未払金	7,516	9,401
未払法人税等	1,453	766
引当金	515	392
その他	1,337	1,131
流動負債合計	16,529	17,658
固定負債		
長期借入金	3,000	-
引当金	54	53
退職給付に係る負債	1,456	1,518
その他	162	163
固定負債合計	4,673	1,735
負債合計	21,203	19,393



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,064	6,116
資本剰余金	6,993	7,045
利益剰余金	18,344	19,638
自己株式	4	391
株主資本合計	31,396	32,409
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	566	811
繰延ヘッジ損益	13	39
為替換算調整勘定	47	60
その他の包括利益累計額合計	600	911
純資産合計	31,997	33,320
負債純資産合計	53,200	52,713

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	61,786	60,800
売上原価	38,708	36,022
売上総利益	23,077	24,777
販売費及び一般管理費	17,852	19,842
営業利益	5,224	4,934
営業外収益		
受取利息	13	11
受取配当金	47	52
債務勘定整理益	2	41
その他	45	83
営業外収益合計	109	188
営業外費用		
支払利息	15	11
為替差損	127	10
その他	2	6
営業外費用合計	145	29
経常利益	5,187	5,094
特別利益		
投資有価証券売却益	10	15
事業譲渡益	-	100
特別利益合計	10	115
特別損失		
固定資産除却損	9	15
投資有価証券売却損	2	-
特別損失合計	12	15
税金等調整前四半期純利益	5,186	5,193
法人税、住民税及び事業税	1,692	1,706
法人税等調整額	64	27
法人税等合計	1,628	1,734
四半期純利益	3,558	3,459
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,558	3,459

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	3,558	3,459
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	141	244
繰延ヘッジ損益	202	53
為替換算調整勘定	26	13
その他の包括利益合計	35	310
四半期包括利益	3,523	3,770
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,523	3,770
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）  
重要な変更はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）
減価償却費	723百万円	729百万円
のれんの償却額	32	32

（株主資本等関係）

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月10日 取締役会	普通株式	1,900	54.50	2022年3月31日	2022年6月1日	利益剰余金
2022年10月28日 取締役会	普通株式	349	10.00	2022年9月30日	2022年11月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月9日 取締役会	普通株式	1,328	38.00	2023年3月31日	2023年6月1日	利益剰余金
2023年10月27日 取締役会	普通株式	832	24.00	2023年9月30日	2023年11月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの記載順序を変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントの記載順序を同様に變更しております。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	通販事業	eコマース 事業	H B T事業	グループ 管轄事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	14,009	31,403	15,277	1,079	15	61,786	-	61,786
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,745	2	42	9	2,565	4,366	4,366	-
計	15,755	31,406	15,319	1,089	2,581	66,152	4,366	61,786
セグメント利益 又は損失( )	536	4,790	173	125	114	5,142	45	5,187

(注) 1. セグメント利益又は損失( )の調整額には、未実現利益等45百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	通販事業	eコマース 事業	H B T事業	グループ 管轄事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	16,888	30,627	12,204	1,063	16	60,800	-	60,800
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,365	0	88	8	2,490	3,953	3,953	-
計	18,253	30,627	12,293	1,071	2,506	64,753	3,953	60,800
セグメント利益 又は損失( )	825	4,704	510	25	100	5,094	0	5,094

(注) 1. セグメント利益又は損失( )の調整額には、未実現利益等 0百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの記載順序を変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントの記載順序を同様に変更しております。

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					
	ソリューション事業	通販事業	eコマース事業	HBT事業	グループ管轄事業	計
売上高						
商品の提供	3,483	31,247	15,267	878	-	50,876
サービスの提供	10,526	156	9	201	15	10,909
外部顧客への売上高	14,009	31,403	15,277	1,079	15	61,786

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					
	ソリューション事業	通販事業	eコマース事業	HBT事業	グループ管轄事業	計
売上高						
商品の提供	5,273	30,617	12,199	833	-	48,925
サービスの提供	11,614	9	5	229	16	11,875
外部顧客への売上高	16,888	30,627	12,204	1,063	16	60,800

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 2022年 4 月 1 日 至 2022年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 2023年 4 月 1 日 至 2023年12月31日 )
1 株当たり四半期純利益	101円91銭	99円24銭
( 算定上の基礎 )		
親会社株主に帰属する四半期純利益 ( 百万円 )	3,558	3,459
普通株主に帰属しない金額 ( 百万円 )	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 ( 百万円 )	3,558	3,459
普通株式の期中平均株式数 ( 千株 )	34,916	34,856

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

2023年10月27日開催の取締役会において、2023年 9 月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| ( 1 ) 配当金の総額             | 832百万円      |
| ( 2 ) 1 株当たりの金額          | 24円00銭      |
| ( 3 ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2023年11月30日 |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月7日

株式会社 スクロール

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

浜松事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

唯 根 欣 三

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

田 中 勝 也

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スクロールの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スクロール及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。